

第 4 問

【解答】

材		料	
月初有 高	(53,000)	直接材料費	(515,000)
当月仕入 高	(589,000)	間接材料費	(51,000)
		月末有 高	(76,000)
	(642,000)		(642,000)

製造間接費			
間接材料費	(51,000)	予定配賦額	(824,000)
間接労務費	388,000	配賦差異	(40,000)
間接経費	425,000		
	(864,000)		(864,000)

仕掛品			
月初有 高	233,000	当月完成高	(1,459,000)
直接材料費	(515,000)	月末有 高	214,000
直接労務費	101,000		
製造間接費	(824,000)		
	(1,673,000)		(1,673,000)

【解説】

材料費の計算を中心とした費目別計算の勘定記入の理解が問われている。

①材料勘定の記入

- ・月初有 高： 44,000 円 + 9,000 円 = 53,000 円
- ・当月仕入 高： $\frac{265,000 \text{ 円} + 275,000 \text{ 円}}{\text{原料 X}} + \frac{32,000 \text{ 円} + 17,000 \text{ 円}}{\text{消耗品 Y}} = 589,000 \text{ 円}$
- ・直接材料費： 220,000 円 + 295,000 円 = 515,000 円 (原料 X の消費額)
- ・間接材料費： 9,000 円 + (32,000 円 + 17,000 円) - 7,000 円 = 51,000 円 (消耗品 Y の消費額)
- ・月末有 高： $\frac{44,000 \text{ 円} + (265,000 \text{ 円} + 275,000 \text{ 円})}{\text{原料 X}} - \frac{(220,000 \text{ 円} + 295,000 \text{ 円})}{\text{消耗品 Y}} + 7,000 \text{ 円} = 76,000 \text{ 円}$

これらの関係を図解すると次のとおりである。

月初	44,000	消費(仕掛品勘定へ) 220,000 295,000
当月仕入	265,000 275,000	
		月末 69,000 ¹⁾

1) 貸借差額により算定

月初	9,000 ¹⁾	消費 (製造間接費勘定へ) 51,000 ²⁾
当月仕入	32,000 17,000	
		月末 7,000

2) 貸借差額により算定

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.36~p.41 参照

②製造間接費勘定の記入

- ・間接材料費：材料勘定の間接材料費の金額
- ・予定配賦額：予定配賦額は、実際配賦基準数値に予定配賦率を乗じて求める。

$$\text{予定配賦率} = \frac{9,600,000\text{円}}{6,000,000\text{円}} = 1.6$$

$$\text{予定配賦額} = (220,000\text{円} + 295,000\text{円}) \times 1.6 = 824,000\text{円}$$

- ・配賦差異：(51,000円 + 388,000円 + 425,000円) - 824,000円 = 40,000円 (貸借差額により算定)

③仕掛品勘定の記入

- ・直接材料費：材料勘定の直接材料費の金額
- ・製造間接費：製造間接費勘定の予定配賦額の金額
- ・当月完成高：(233,000円 + 515,000円 + 101,000円 + 824,000円) - 214,000円 = 1,459,000円

(貸借差額により算定)

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.80~p.88 参照

第 5 問

【解答】

月末仕掛品の A 原料費	=	1,120,000	円
月末仕掛品の B 原料費	=	280,000	円
月末仕掛品の加工費	=	840,000	円
完成品総合原価	=	17,620,000	円
完成品単位原価	=	4,405	円/kg

【解説】

仕損が発生する場合の単純総合原価計算の理解が問われている。

①月末仕掛品原価の計算

生産データを原料費と加工費に分けて整理すると、次のとおりである。

B 原料は「工程を通じて平均的に投入」されるため、加工費と同様、進捗度を考慮した完成品換算数量を用いる。

A 原料費				B 原料・加工費			
月初	400			月初	200 ¹⁾		
		完成	4,000			完成	4,000
当月	4,600	仕損	200	当月	4,400	仕損	200 ²⁾
		月末	800			月末	400 ³⁾

1) 400 kg × 0.5 2) 200 個 × 1.0 3) 800 個 × 0.5

原価投入額の配分方法は平均法であるから、月末仕掛品原価は月初仕掛品原価と当月製造費用の合計額から計算する。また、正常仕損の発生点が終点であるため、正常仕損費は完成品のみ負担となる。この場合、月末仕掛品原価の計算において、当月投入数量から仕損数量を差し引かない。

また、完成品のみ負担の場合、仕損品の処分価額は完成品原価と月末仕掛品原価を計算したあとで、完成品原価から差し引いて求める。これにより、月末仕掛品原価は、次のように計算する。

$$\text{A 原料の月末仕掛品原価} : \frac{560,000\text{円} + 6,440,000\text{円}}{400\text{kg} + 4,600\text{kg}} \times 800\text{kg} = 1,120,000\text{円}$$

$$\text{B 原料の月末仕掛品原価} : \frac{130,000\text{円} + 3,090,000\text{円}}{200\text{kg} + 4,400\text{kg}} \times 400\text{kg} = 280,000\text{円}$$

$$\text{加工費の月末仕掛品原価} : \frac{400,000\text{円} + 9,260,000\text{円}}{200\text{kg} + 4,400\text{kg}} \times 400\text{kg} = 840,000\text{円}$$

②完成品総合原価の計算

完成品原価 = (月初仕掛品原価 + 当月製造費用) - 月末仕掛品原価 - 仕損品処分価額

$$\text{A 原料の完成品原価} : (560,000\text{円} + 6,440,000\text{円}) - 1,120,000\text{円} = 5,880,000\text{円}$$

$$\text{B 原料の完成品原価} : (130,000\text{円} + 3,090,000\text{円}) - 280,000\text{円} = 2,940,000\text{円}$$

$$\text{加工費の完成品原価} : (400,000\text{円} + 9,260,000\text{円}) - 840,000\text{円} = 8,820,000\text{円}$$

$$\text{仕損品処分価額} \quad \underline{\underline{-20,000\text{円}}}$$

$$\text{完成品総合原価} \quad \underline{\underline{17,620,000\text{円}}}$$

③完成品単位原価の計算

$$\text{完成品単位原価} : \frac{17,620,000\text{円}}{4,000\text{kg}} = 4,405\text{円/kg}$$

新版日商簿記テキスト工業簿記 p.165～p.170 参照